

2012年3月5日

**可塑剤の溶出量を大幅に抑制できる
ポリ塩化ビニルの業務用食品包装ストレッチフィルムを開発**

三菱樹脂株式会社

三菱樹脂株式会社（本社：東京都中央区 社長：吉田 宏）は、可塑剤^{※1}の溶出量を大幅に抑制できるポリ塩化ビニル製の業務用食品包装ストレッチフィルムを開発しました。また、可塑剤には、業界で初めて植物由来原料を主成分としたものを採用しました。

当社は、スーパーマーケットなどの生鮮食品や加工食品の包装などに使われる業務用ストレッチフィルムのトップブランド「ダイアラップ[®]」を製造しています。業務用ストレッチフィルムの素材は、主にポリオレフィン系とポリ塩化ビニルの2種類がありますが、一般的なポリ塩化ビニルのストレッチフィルムには、柔軟性や粘着性を高める目的で、製品の約3割程度に可塑剤が添加されています。そのため、脂分の多い加工食品などを包装した場合に微量ながらも可塑剤が溶出すると確認されています。この溶出については、食品衛生法と業界自主基準により、人体に影響がない可塑剤の溶出量と種類が規定^{※2}されており、当社製品もこの基準を厳守していますが、当社は消費者へより安心・安全な商品の提供をすべく、溶出量を抑え且つ植物由来原料を使用した製品の開発を行ってきました。

今般、開発したポリ塩化ビニルのストレッチフィルムは、植物由来原料を主成分とする可塑剤を使用することで、フィルムが食品の脂分などに接した場合にも可塑剤の成分が溶出しにくく、その溶出量は当社の従来品と比べて約半分になっています。なお、包装適性などの品質面は同等レベルです。さらに、この可塑剤の変更によりフィルムの剛性が向上し、フィルムの厚みも薄くなっているため、当社の従来品と比べて製品重量が約1割減り、廃棄量の削減にも繋がります。

当社は、本製品の市場での性能評価を行った後、本年秋に販売を開始する予定です。当社は、これからも安心・安全な包装資材の積極的な開発・商品化を通じて、三菱ケミカルホールディングスグループが提唱する「KAITEKI^{※3}」の実現を目指してまいります。

※1 一般的にポリ塩化ビニル製品の柔軟性などを高めるために添加されている物質。酸とアルコールから合成される化合物であるエステルが一般的です。

※2 厚生労働省により、様々な溶出試験において溶出量が規定されています。可塑剤の溶出が最も多いとされる溶出試験（疑似溶媒：n-ヘプタン 試験条件：25℃×60分）を実施した場合、ポリ塩化ビニル製の包装フィルムでは、溶出量が150ppm以下と定められています。

※3 人にとっての心地よさに加え、社会にとっての快適、地球にとっての快適を併せ持ったもので、真の持続可能な状態

【写真】



「ダイアラップ®」



「ダイアラップ®」を使用した包装イメージ

＜本件に関する報道関係のお問合せ先＞
三菱樹脂株式会社 総務部 広報室
TEL:03-3279-3800